

2014年8月24日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #10

OICへようこそ。お越しいただきありがとうございます。今日も、パウロがピリピの教会に宛てて書いた手紙の学びを続けます。パウロは、この教会に愛着を持っていました。パウロは自身が開拓したこの教会に、ローマの獄中から励ましの手紙を綴ります。手紙の中で、パウロは信徒たちとの思い出を挙げるとともに、非常に困難な状況でも喜びがあるのはイエスとのつながりがあるからだと言いました。3章からは、教会に分裂をもたらそうとする者たちについて厳重な警告を送ります。パウロは引き続き、喜びというテーマにふれ、喜びは状況に左右されるものではなく、私たちの見方次第だと教えます。クリスチャンは常に喜ぶことができます。神が状況に縛られず、どんな事態にも働くことのできるお方だからです。取り巻く環境がどうであれ、喜びを奪われてはいけません。今日の聖書箇所は、肉ではなく主に喜びを持ちなさいと教えてくれます。今日の聖書箇所は、ピリピ 3:1-3 です。

ピリピ 3:1-3

3:1 最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。**3:2** どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。肉体だけの割礼の者に気をつけてください。**3:3** 神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

使徒パウロの言葉の主旨をこのように捉えることができます。私たちが本当の神の子を見分けられるようにしてくれているのです。この3節の中に出てくる人々をふたつのグループに分けると、そこには対照的な違いがはっきりと見えます。2節に登場する人々をグループ1とします。犬、悪い働き人、肉体だけの割礼の者です。グループ2は、神の御霊によって礼拝をする人、キリスト・イエスを誇る人、そして人間的なものを頼みにしない人です。パウロは、「宗教的な人」と「義とされた人」との間に明確な線引きをします。つまり、神のものであるという表面的なしるしのある者と内側が変えられた者との違いです。ここで少し背景を説明しましょう。ユダヤ教からの改宗者の中で、救いを完成するためには割礼を施さなければならないという人たちが出てきました。これらの人はユダヤ化主義者と呼ばれました。彼らは、儀式を順守するという意味で宗教的ではありましたが、必ずしも義認された人たちではありませんでした。表面的には正しくても、内なる信仰がなかったのです。ユダヤ教の習わしでは、割礼は罪から根本的に洗いよめられる必要性を描いた象徴です。しかし長年を経て、この霊的な意味が失われていきました。パウロはピリピの信徒たちに、その違いを理解するようにと注意を促します。私の理解するところによると、人はイエスのみを完全に信じてクリスチャンとなります。努力ではなく恵みによって、信仰をとおして私たちは救いを受けるのです。私たちが付け足せるものは何ともありません。では、この3節をそれぞれ見ていき、パウロがなぜピリピの教会に、またひいては私たちのために、これを書き送ったのか学んでいきましょう。最初の1節は、覚書の役割を果たします。

#1A 覚書

ピリピ 3:1 最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きますが、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなることです。

主にあって喜ぶとは、私はクリスチャンであるという宣言です。キリスト教の真髄と言えます。主イエス・キリストがすべてであるという意味です。パウロはピリピの教会、そして OIC にいる私たちに、喜びの心を持って主を喜びなさいと訴えます。パウロは、同じことを繰り返し書いても煩わしくない、と語ります。自分の言葉をよほど強調したかったのでしょう。1 章 28 節では、反対者たちがいても驚く必要はないと語っていました。

ピリ 1:28 また、どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはない。それは、彼らにとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。これは神から出たことです。

パウロが何を指して語っていたのか詳細はわかりませんが、キリストにのみ信頼をおいて生きるクリスチャン生活についてだということは明らかです。私たちがこの言葉をはっきり記憶に留めることをパウロは望んでいます。喜ぶ心を持ち続けることを強調したかったのでしょう。私もよく同じことを繰り返し言います。例えば、「私たちは教会に来るだけでは十分ではありません。教会になる必要があります」と私が言うのを何度も聞いたことがあるでしょう。私は、覚書のように思い出させてくれるものを利用します。そのおかげで、人生で大切なことに立ち戻り、それに従って生きていこうという気になれます。そこには、警告も含まれます。2 節から、パウロは具体的な警告を発します。

#2 A 警告

ピリピ 3:2 (新共同訳)

あの犬どもに注意しなさい。よこしまな働き手たちに気をつけなさい。切り傷にすぎない割礼を持つ者たちを警戒しなさい。

2 節の中で、パウロは具体的に 3 種類の警告を与えます。「犬どもに注意しなさい」とパウロは語ります。おもしろいことに、ユダヤ人がユダヤ教の教えを守らない人たちについて同じ単語を使っていました。この「犬ども」とは、ユダヤ化主義者です。彼らは、パウロの働きを台無しにしようとしていました。パウロは彼らを「切り傷にすぎない割礼を持つ者たち」と呼びます。彼らが、信仰の伴わない割礼を救いの方法として奨励したからです。新しい契約では、キリストのみが救いの道です。

使徒 20:29

私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中に入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。

パウロは、悪い働き人についても警告します。彼らは、行いによって義を得ることができると言い、割礼などのモーセの律法を守らなければならないと教えます。それが、パウロの挙げた 3 つめの人たちです。

昔の契約では、これは「帰属」のしるしと見なされていました。割礼を受けている人とは、神に属する者を意味したのです。

創世記 17:10, 11

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。
17:11 あなたがたは、あなたがたの包皮の肉を切り捨てなさい。それが、わたしとあなたがたの間の契約のしるしである。

なぜ割礼がそれほど大切なのでしょう。神は人々が生殖行為について考えることを望まれました。また、生殖行為そのものが、民と交わしてくださった神の契約を民が守る方法でした。今日では、キリストにある永遠のいのちの保障として、私たちには聖霊の証印が与えられています。

エペソ 1:13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のこぼ、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。

#3 真の割礼

ピリピ 3:3 神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

パウロは神のみことばの真理を強調します。私たちは違う意味で割礼を受けています。何が違うのでしょうか。私たちは、堅い心を取り去られた者です。

コロサイ 2:11 キリストにあつて、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。

罪の性質もまた、取り去られました。キリストは霊の割礼を施してくださったのです。

ローマ 6:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

私たちが心から信仰をもってキリストを受け入れるなら、肉を頼りにする必要はもうありません。

ローマ 4:5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

結び

これほどの嚴重な警告を、なぜ多くの人が無視するのでしょうか。それは、サタンが常に「おまえは救われていない」とささやきかけてくるからです。そんな言葉に耳を貸してはいけません。サタンは偽りの父です。こんなささやきを聞いたことがあるではありませんか。

「クリスチャンらしくないときもあるじゃないか。いつもクリスチャンらしくしていられないなら、きっと本当のクリスチャンじゃないのだ。」けれども、人間は誰でも失敗します。だからこそ、イエスという弁護してくださるお方が天におられるのです。今日の個所は、私たち皆に向けられた嚴重な警告のみことばでした。イエスが成し遂げてくださった御業に何かを付け足そうとするなら、それがすでに間違いです。自力で救いを得ようとするなら、その行いはクリスチャンらしく見えるかもしれませんが。私もクリスチャンになる前、それらしい言動をすることで、キリストを信じる人だという印象を他人に与えたことがありました。けれども、信仰による悔い改めは、心の中に起こることです。心の変化が、神の望まれる行いへと現れていくものです。祈りましょう。